

生涯学習 だより

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」
共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課
ふちゅう生涯学習センター共同事業体

第75号

2021年4月1日発行

P1. [運動・気晴らし・新しい発見]
公園や街中散策で「学び」を！

P2. 自主グループ紹介
「M☆rettes」「だけきだん」

P3. 「学びを楽しむ・学びを支える」
シニアクラブ連合会 根岸さん

P4. 「ふちゅう東西南北」
善明寺・高安寺を訪ねてみた



《今月の一枚》
花いっぱい春です
心も身体も
満開になれたらと
思います
「絵手紙きすげの会」
作品より

【運動・気晴らし・新しい発見...】

公園や街中の散策で「学び」を楽しもう！

コロナ禍の中でも比較的安心安全に楽しめるのが、公園や街中の散策。府中には、公園や広場が大小合わせて約400カ所もあり、気ままに散策すれば、運動にも気晴らしにもとってもいい！それに、散策の中の「これ何？」「あれ面白そ〜」という気づきを手掛かりに調べていけば、「学び」も広がり、楽しいですね。

まずは？(はてな)を見つけて考えよう！

☆ 気になったこと・ものに注目！

- ・アート作品がある(府中の森公園、さくら通り広場など)
→ 誰の作？なぜここに？設置の目的は？
- ・変わった植物、花がある(郷土の森公園など)
→ 名前は？何の仲間？何処にでもあるの？
- ・史跡の様なものがある(武蔵野の森公園など)
→ 名前は？何のため？残された目的は？
- ・広場と公園は違うのか
→ 広さで区別？目的で区別？

☆ 公園の名前に注目！

- ・公園の名が住所地と違う(新宿公園、平和通り広場など)
→ 昔の地名に由来？作った目的に由来？
- ・なぜ似た名前がいくつもあるの
(武蔵野公園と武蔵野の森公園、府中公園と府中の森公園)

☆ 公園の成り立ちに注目！

- ・すぐそばに飛行場(武蔵野の森公園)
→ 何かの施設の跡地？
- ・川に沿って広がっている(野川公園)
→ ゴルフ場の跡地ってほんと？



他にもいろいろありますね。
散策しながら探してみましよう！

？つなぎで「学び」を広げよう！

1) 現場で情報をチェック

- ・銘板や案内版の説明書きを読む
- ・公園事務所・付属施設で聞いてみる
- ・パンフレットを入手して調べる など

2) 帰宅していろいろな方法で調べる

- ・(古いことを)知っていそうな人に直接聞く
- ・市の担当(公園緑地課、政策課)に聞く
- ・図書館、資料館などで調べる
- ・観光情報センターに聞いてみる など

3) インターネットで調べて広げる

<例えば>

☆ 武蔵野の森公園の史跡は

- 「掩体壕」(写真)
- ・掩体壕とは何か
- ・なぜここにあるのか
- ・他にも府中市内にあるか、日本全体では
- ☆ さくら通り広場には小僧さんの像がある
- ・誰の→ 藪内左斗司氏の作品→ 他の作品は
- ・なぜ→ 「彫刻のまち府中」の施策で設置
→ 施策の全体像は



など、自分の得意な方法で調べてみましょう！



生涯学習センターを中心に活動する 自主グループの紹介

生涯学習センターを中心に活動しているサークルはたくさんあります。今回は、パフォーマンス系の2つの自主グループをご紹介します。

チアダンスチーム M☆rettes

M☆rettes (エムレッツ)は、府中市生涯学習センターと、味の素スタジアムを中心に活動するチアダンスチームです。

年少から小学6年生のメンバーで、チアダンスを通じて、社会で活躍できる子を育てることを目標に活動しています。

日々の活動の中では、チアダンスが上達するよう練習することはもちろん、一生懸命努力することやお友達と協力することなど、心の成長も大切にしています。

活動内容は、

- ① 府中市生涯学習センターと地元味の素スタジアムを中心に、調布市や府中市で行われる地域イベントで演技
- ② FC東京やアメリカンフットボール、ブラインドサッカーなどのスポーツ応援
- ③ チアダンスの競技会を3つの柱としています。

2019年、フロリダで行われた15歳以下のチアダンスの世界大会「The Dance Summit」にて優勝しました。

・優勝報告のため、高野市長へ表敬訪問 ⇒

今は「春チア」という大会に向けて、それぞれのクラスで一生懸命練習しています。

これからも大好きなチアダンスを通じて、周囲を盛り上げられるようにがんばります！



活動場所：府中市生涯学習センター、ミズノフットサルプラザ味の素スタジアム

活動日：毎週水・金曜日

【連絡先】ミズノフットサルプラザ味の素スタジアム 042-484-1977(宮木)



和太鼓ユニット だけきだん

「だけきだん」は、府中市を拠点に活動を展開している和太鼓ユニットです。高校時代の部活動(和太鼓部)の仲間が、そのままチームとして活動しています。

2016年7月に行われた第1回林英哲杯(太鼓楽曲創作コンクール)を結成日として活動を本格的に始め、伝統的な武蔵国府太鼓の楽曲や、だけきだんのオリジナル曲を

演奏しています。今までの活動で創作した楽曲は10曲を超え、第2回・第3回林英哲杯では連続で最優秀賞を受賞しました。

活動では、メンバーが自らの個性を追求し、心技体を鍛えながら独自の世界観を創作することを目指しています。

また、子ども太鼓教室「だけきだんりとり」、太鼓教室「太鼓広場」を開き、和太鼓文化の普及も図っています。

詳細は「だけきだんホームページ」をご覧ください。



活動場所：生涯学習センター、府中の森芸術劇場

活動日：主に週末

指導者：八木 敦子

【連絡先】八木 090-6505-6669

だけきだんホームページ

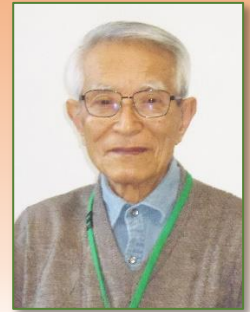
<https://hiraganadagekidan.jimdofree.com>



コロナ禍の中でも積極的に活動している

府中市シニアクラブ連合会 副会長 根岸光紀さん(多磨町在住)

今回は、府中市シニアクラブ連合会(シニア連)での活動、地域の社会貢献、ボランティア活動など、地域に深く関わり積極的な活躍をしておられ、「生涯学習ボランティア『悠学の会』」の会員でもある根岸光紀さんにご登場いただきました。



Q1 シニア連との関わりはいつごろからですか

シニア連は、市内のシニアクラブ(単位クラブ)の統合団体で、文化センターの圏域に従って9つの地区シニア連に分かれています。地区シニア連の会長はシニア連の理事としてその運営に当たります。

私は、紅葉ヶ丘地区のシニアクラブで活動していましたが、地区会長が体調を崩され、なんとか代わりをとの要請を受けて地区会長になり、平成26年(2014)からシニア連に参画し始めました。

現在は副会長で、広報部担当として広報誌『府中シニア連だより』の作成に携わっています。この広報誌は年4回の発行で、12頁構成。発行部数は6,000部で、約5600名の会員と、市役所、市内の文化施設や各所に配布されています。

Q2 コロナ禍のなかで、取材や情報収集のためには、どのような工夫をしていますか

広報誌では、シニア連の主催行事を取材し記事にするのですが、現在の新型コロナウイルス禍の影響で、そうした全体で行うイベントがほとんど中止になって、記事探しに苦労しています。

と言っても、地区ごとや各クラブでは、感染対策をしっかりと、密にならない人数制限のもと開催されているイベントもあります。会員の平均年齢が78~80歳のクラブが多いので感染が心配ですが、グランドゴルフ、ペタンク、輪投げなど、密を避けられる野外の軽スポーツを主体に、会員のフレイル予防のために行っています。広報部にとっては貴重な記事ですので、写真撮影を兼ねて取材に出掛け、できるだけ記事にしています。

でも、よかった事もあります。行事の記事が少なくなった代わりに、最近では会員から投稿される記事(体験談、短歌や俳句など)の掲載も積極的にやるようになり、今までと違った誌面構成を試すことが出来たのは幸いです。一方、町会では



コロナ禍で、市の指導により回覧板を回覧する事がで

きないため、市としても必要な市民への情報伝達が出来なくて困っています。その一助として、市役所各部門から市民に伝達したい情報を提供してもらい掲載させて頂くことで、市のお手伝いと同時に私どもの記事の穴埋めにも利用でき助かっています。

Q3 地域活動の中で、人と人の接し方、交流の仕方など、これから力を入れていきたいところは

私は今、多磨町自治会の副会長として、地域の見守り活動、町会サロンの開催(月1回/高齢者の居場所づくり)をやっています。見守りでは、高齢の独居の方、同居者がいても昼間は独りになる方を対象者として予め募集し、自宅訪問や電話での状況確認をしており、状況に応じては、地域の包括支援センターや社会福祉協議会、警察とも連携を取り、いざという時の対応をしています。こうした活動に、さらに力を入れていきたいですね。

Q4 質問が変わりますが、今も永く続けていることはありますか

以前やっていた漆塗り(螺鈿)をまたやりたいのですが、なかなか時間が取れず、手が回りません。材料は置いてあるのですが…。

今は、町会サロンで皆さんに楽しんでもらえればと思い、ウクレレ演奏を独学で始めました、2年くらいになりますか。コードはすぐ忘れてしまいますが、暇があれば少しずつ練習をしています。少しは上達したかな…。

Q5 シニアクラブや地域などで、これからやりたい事がありますか

自身も昨年80歳になって、齢(よわい)を数える時期になりました。あれこれはできませんが、地区の災害時の支援活動システムを作りたいと思っています。市には75歳以上の人への「災害時要援護者制度」というのがあって、災害の時などに支援を希望する人を募集して登録しています。実際の支援活動の担い手は、地域の町会や民生委員なのですが、まだちゃんとしたシステムとして出来上がって機能するところまで至っていないのです。要支援者の個人情報絡みもあって難しいですね。

これから、民生委員の人たちとも協力して、出来るだけ早く作りたいと思っています。

(取材・文/渡邊繁雄)

「郷土かるた」に載る名刹 善明寺・高安寺を訪ねてみた!

市民の皆さんにはおなじみの『武蔵府中郷土かるた』。46枚ある読み札には市内の名所も多数詠まれています。その中で、お寺の名前が載っているのは「善明寺」と「高安寺」だけです。そこで、府中駅近くの2つのお寺を訪ねてみました。



わがまち府中は、飛鳥時代の西暦645年の大化の改新以降、武蔵国の国府が置かれ、歴史上早くから政治、経済、文化の中心地でした。鎌倉時代末期は軍事上の決戦の舞台となり、江戸時代には甲州街道の宿場町として栄えました。明治以降も多摩地域の中心の役割を担い、昭和29年4月、人口約5万人の府中市が誕生。現在は26万人を擁する東京の近郊都市として発展を続けています。

歴史のある町なので、お宝が沢山あるものと思いましたが、現在、府中市に国宝はなく、国指定の重要文化財として、善明寺の鉄造阿彌陀如来坐像・立像、上染屋八幡神社の銅造阿彌陀如来立像、大國魂神社の木造狛犬など5件が登録されています。

そこで、「郷土かるた」にも詠まれ、府中駅から歩いて12～13分の本町にある善明寺へ行ってみました。鉄造阿彌陀如来坐像・立像は毎年11月3日に公開されるのですが、昨年はコロナ禍で中止したそうです。次に、善明寺から歩いて7分程の、1000年以上の歴史のある大きなお寺・高安寺(片町)へ向かいます。武蔵国の国守となった藤原秀郷公の館が始まりの、様々な歴史をくぐりぬけてきたお寺だそうです。(鈴木禎治)



善明寺



高安寺

府中市のホームページより



善明の鉄造の坐像

善明寺は府中本町駅から徒歩3分のところにあります。有名なのは鉄造阿彌陀如来坐像で当初武蔵国分寺の西方、鉄谷(くろがねだ)にあったと伝えられ、その後大國魂神社に安置されましたが、明治の初め神仏分離令により善明寺に移されました。附(つかけり)の鉄造阿彌陀如来立像は、胎内仏と称し坐像とほぼ同時期に制作されたものと考えられています。坐像は高さ178cmで立像は高さ100cm。今では100cmのものが胎内に入っていないのではないか、と疑問だそうです。両像の御開帳は11月3日、綺麗な庭園も見どころのひとつですので、訪れてみてはいかがでしょうか。(井口文江)



阿彌陀如来座像



高安の朝鳴はる寺の鐘

高安寺の山門を潜り抜けると、すぐ右手に鐘楼が見える。1858年改鑄(1856年建立)の東京都選定歴史的建造物である。長年にわたり近隣住民に時を知らせる重大な役割を担ってきた。平成21年10月からは、朝、夕5時に6つ、昼は11時半に12個と日に3回の鐘を、ほぼ自動で撞いているとのこと。まさに時代の変化を感じさせる。↓

その先の本堂にお参りをしていると、誰もいないはずの後方から「お前が後生大事に持っているものは、後生じゃ何の役にもたちゃしないのさ」との声がした。振り向いた先には、三途の川の渡し守・奪衣婆の像。じっとこちらを見ていた。(中井博子)



機械化された鐘突き



高安の自然をまもろう

高安寺の本堂は、現在の姿に再建されて200年以上の年月を経ているそうです。お堂の前には大きなコウヤマキとヒバの木があって、存在感を示しています。この大木は長く立ち続け、高安寺の自然を守っているのでしょう。今私たちは、異常気象や自然災害に悩まされ続けているけれど、「自然を大切に、命あるものと一緒に生きなさい」と語りかけているように感じました。

これからは、密を避けながら出かけつつ、自然に触れ、見る目・感じる心に磨きをかければ、昨今の困難を乗り越えられる力が湧いてくるだろうと思います。(山田詩子)



高安の春は梅の木はあんなに

春めいた日差しの中、高安寺を訪ねました。胸の中で梅の木はあるのかな…と期待をしつつ山門をくぐると、庭園の左手に開花をひかえた梅の木を見つけることができました。

もともと仏教において、花(梅)は仏の慈悲を表すものですが、禅においては無心の象徴でもあり、さらに開花は悟りを開くことを意味します。ここ高安寺は臨済宗から歴史を経て曹洞の禅寺として今日に繋がっていますので、この梅もそんな思いで植えられたのかもしれませんが。

現代に生きる私たちは、経済性・利便性を限りなく追及し、多くの物と情報の中で豊かに暮らしていますが、しかし本当に私たちは豊かなのでしょうか。私達の心は…と考えつつ、梅の花に向かって心を委ね語りかけてみました。(柴田洋子)



編集後記: 緊急事態宣言の発出・解除とオリ・パラ開催への不安とが相まって、どんよりとした空気が漂っています。梅の花がそっと届けてくれた温もりは、早めに桜へとバトンタッチ。明るく華やかな季節を迎えるはずが、静かなちよつと寂しい春になりそうです。コロナの収束を願ってまずは感染予防を! (中井博子)